

絵ら障害者カンバス織陣西



法衣を再利用したパネルをカンバスに、鮮やかな絵が描かれたインテリア製品
(京都市中京区・NAGOMI)

中京の支援事業所 インテリア製品に

不要になった西陣織の法衣を再利用したカンバスに、障害のある人が絵を描いたインテリア製品を京都市中京区の障害者支援事業所が制作した。和の雰囲気あふれる作品に「京都らしい製品を通して、障害者の感性をPRしたい」と期待している。

法衣再利用 「感性PRしたい」

支援事業所を運営するNAGOMIは、発達障害などがある人に、職業訓練や工芸品制作の補助を指導している。インテリア創作は、就職後の余暇や副業に生かしてもらおうと企画した。

カンバスにする布は、西陣織の法衣を手掛ける会社から譲り受けた。古くなった法衣や法衣用の不要な布を、3種類のサイズ(縦18センチ・横14センチ、縦28センチ・横22センチ、縦30センチ・横40センチ)に貼り付けてカンバスにした。

絵は、施設を利用する20代と30代の女性2人が、アクリルで色鮮やかに描いた。題材は多彩で、ハスや松、鷹といった花鳥風月のほか、アニメのキャラクター風にも描かれた「風神雷神図」などもある。本多和憲社長(32)は「障害や障害者の就労について関心を持つきっかけになれば」と話す。

製品はインターネットで販売している。2000円から5000円程度。問い合わせはNAGOMI 075(746)6050。(近藤大介)